

第4回 新たな文化施設の整備に関する有識者会議

日時：令和7年3月6日（木） 10：00～12：00

場所：鳥取市役所本庁舎7階第2委員会室

参加者：

有識者：五島朋子会長、倉持裕彌副会長、河合真由子委員、赤山渉委員、
木谷清人委員、田邊徹委員、齊藤頼陽委員、湯浅いづみ委員、
大倉さゆり委員、川崎富美委員

鳥取市：文化交流課：中村和範課長、城市索課長補佐、藤田主任

政策企画課：上田貴洋課長

教育委員会生涯学習・スポーツ課：須崎ひとみ課長、平田政志課長補佐

総務部資産活用推進課：福井一郎課長

まちなか未来創造課：筒井真二課長

PwC：片山、吉田、鈴木、藤井（オンライン）

【議事要旨】

1. 開会

2. 議題

（1）事務局からの報告・意見交換

① 基本理念、コンセプトの再確認

※資料 1-1、1-2、1-3 について、事務局より説明

＜質疑応答・意見交換＞

【委員】展示スペースの規模について意見した 600 m²程度というのが反映されているが、現記載だと 600 m²が上限のように読めるため、表現を改めた方が良いのではないか。800 m²等、600 m²よりも広い展示スペースも考えられる。

【委員】展示スペース以外は具体的な面積までは示されていないが、基本構想では具体的

な面積を示す想定か。

【委員】規模を限定した書き方にしない方が良いのではないかという趣旨であった。

【会長】基本構想では具体的な室数・面積を出さない方がよいという意見と受け止めた。

【事務局】基本構想では具体的な規模ではなく、基本的な方向性をまとめる想定でいる。

【会長】ホールは小規模（300～600 席）と記載があるが、鳥取市として中規模のホールを残さなくて良いのか。市民会館・文化ホールを改修したとしても、後に廃止となった場合市内に中規模ホールがなくなってしまうため、市外からの興行も受け止められるような中規模ホールを残す必要があると考えている。

【委員】展示スペース以外は具体的な面積が示されていないと発言したが、基本構想の中（p.19 以降）に平米数が書かれていることを確認した。

【会長】基本構想に記載されている面積は、どの程度の大きさなのかを示すものであり、今回の文化施設で整備する面積を示したものではないという理解をしている。

【事務局】基本構想（案）については後程説明するが、資料は現時点版であり本日の議論を踏まえて更新する。

【会長】有識者会議で示されているすべてが記載されるというわけではないということか。

【事務局】然り。例えば資料 1-2 の p.6-8 の記載は検討にあたっての参考資料として整理しているものであり、基本構想の本文には含めていない。

② 想定される機能・諸室のイメージ、使われ方

※資料 2-1、2-2 について、事務局より説明

＜質疑応答・意見交換＞

【会長】基本機能イメージに関して全員のご意見はいただけていないため、本日は皆様から改めてご意見を頂戴したい。基本機能がそれぞれの空間に結びついた際に、具体的にどのような空間にするかが共有できていない。特にクリエイティブ空間をどのような活動をする場所にするのかは議論ができていないため意見を伺いたい。資料 2-1（参考）についても説明お願いできるか。

※資料 2-1（参考）について、事務局より説明

【会長】先ほども言ったが、中規模のホールが必要だと考えている。委員の意見の中にもあったが、使い方とスペースは 1:1 で対応するものではない。使い方とスペースを 1:1 で話すのではなく、どういう機能が必要かという観点から議論するべきで、中規模で一定の性能のホールは不可欠だと考えている。

【委員】ホールの形式について、資料ではプロセニウムアーチがありその先に客席があるホールのイメージが出されているが、最近は音響に特化した円形型の劇場もある。そういったものは全く考えないということで良いのか。

【事務局】サントリーホールのようなヴィンヤード型のイメージか。

【委員】サントリーホールは少し大きすぎる。イメージは西宮市の兵庫県立芸術文化センターの小ホール【（ネーミングライツで）神戸女学院小ホール】だが、演劇の利用には厳しいかもしれない。

【会長】ヴィンヤード形式のホールは、基本的には観客数を出来るだけ増やして収益を上げるための技術革新の一つであり、なおかつ演奏者と鑑賞者が同じ空間にることによって音響性能が高められる。それを中規模に反映することはできなくはない。九州には、ヴィンヤード形式にして、座席が可変することによってプロセニウムができるものもある。観客と演奏者が一つの空間にいて楽しめる小規模な空間という意味では、円形にするかは別として、シューボックスにすれば一定の音響性能も確保可能だと考えている。

【委員】前回の有識者会議で、既存施設の今後についての話が上がった。会長からも中規模ホールの必要性について話があったが、市民会館の延命措置をするのであれば市民会館は中規模ホールとなるので、新たな文化施設は小規模でも良いという考えもある。他方、現在、既存施設の今後のあり方を含め全体が見えていないため、どのような機能を入れるか判断できない。全体での方針が出ないと、このまま続けても議論が積みあがらないのではないのか。これまでの 3 回の有識者会議での議論が積みあがっている感じがしない。

【会長】その点については何度も指摘している。ここで言っておかないと中規模のホールがなくなり鳥取の文化芸術が衰退してしまうと考えているため、あえて文脈をはずして言っているが、仰る通りこの状態だと議論ができないというのはお伝えしている。

【事務局】新しい施設ができるまでは 15 年程度かかってしまうと思っているため、市民会館を改修して新しい施設ができるまでは使う方向性で考えている。新しい施設ができたらそちらにバトンタッチしていく想定でいる。

【会長】市民会館・文化ホールの中規模のホールはなくなるという前提で話をするという理解で良いか。

【事務局】これまでの有識者会議で、市民会館ホールの（一回あたりの）利用者数がそこまで多くないことやこれからの人口減を考慮し、300-600 席規模が良いのではという意見があったと理解している。市民会館は延命して利用していく方針があるものの、新しい施設ができたらバトンタッチしていく想定でいる。

【会長】利用者が減っているのは現在の状況で、なおかつそれはコロナを経ての話であり、加えて現在文化活動をしている人の高齢化により活動が停滞しているため客数が減っている。鳥取市の文化政策として、今後もそれが続いていく見通しで進めていくことということで良いのか。現状はそうだが、今後どうあるべきかの中で機能・規模について議論してきたと考えている。その中でやはり中規模のホールは必要だと考えている。鳥取市が文化行政としてこれからどうしていくのかが分からないため、今の回答には納得できない。前回のシナリオでは市民会館・文化ホール規模のホール機能をなくすという話ではなかったと理解している。駅再整備に交流機能や市民活動に特化した拠点が含まれ、市民会館・文化ホール規模のホール機能を重視した文化施設は別の拠点に出来るというシナリオがあったが、中規模のホールはなくす方向に変わったということか。

【事務局】駅周辺とは別の中心拠点については今後検討していく想定だが、新たな拠点をつくるという意味ではバトンタッチしていくという方針で、立地については検討中。新たな拠点を整備したうえで古い施設からバトンタッチしていくという想定。

【会長】立地の話ではなく、将来的に中規模ホールをなくす方針なのかどうかを確認したい。

【事務局】有識者会議の議論を踏まえて決めていきたいと考えている。これまでの有識者会議では、ホールの規模は 300-600 席が良いという意見だったと理解している。

【会長】自身としては中規模のホールが必要と考えており、有識者会議として 300-600 席規模で合意しているというのには納得できない。また、どこに向かっていけば良いのかという齊藤

委員の質問に対する明確な答えが得られていない。

【事務局】資料 2-3 の統廃合・再編の方向性で考え方を整理しているのでそちらの資料を先にご説明したい。

※資料 2-3 について、事務局より説明

＜質疑応答・意見交換＞

【会長】基本的に鳥取市は中規模のホールは作らない方針ということか。中規模のホールにこだわっているのは、とりぎん文化会館の梨花ホールではできないからである。考え方としては、資料 2-3 で示されている整備例 1 の場合は 300 席規模が良いが、整備例 2 であれば 800 席規模もできるのではないかという議論になると考える。どこにどのように作るのかによって変わるため、市の方向性が示されないと議論できない。

【委員】資料 2-3 で示されたような方向性を先に議論すべきではないか。方向性が決まらないと基本計画にも移れないし基本機能のイメージの議論はできない。

【委員】資料の見方についての確認だが、資料 2-3 の表では、「駅周辺」文化拠点施設と「中心拠点」文化交流施設の 2 つが示されているが、整備例 1 と 2 いずれの場合も、拠点は 2 か所を想定しているという理解で良いか。

【事務局】その理解で良い。

【会長】市の方向性が示されない中で議論はできないため、どのように議論すべきかどうか市からご提案いただきたい。

【事務局】これまでの有識者会議でも立地や整備の時間軸のイメージがなければ議論できないとご意見いただいていたところだが、第 3 回有識者会議では、お示した 3 シナリオのうち、シナリオ 2 が良いのではないかという意見を頂いた。市としては、概ね今後 10 年で新たな拠点を整備したいと考えているが、駅前の再整備計画が令和 7 年度中に策定されるスケジュールであるため、そのスケジュールを踏まえながら、駅前施設にどのような公共機能をいれていくのかを検討していく。基本構想では、将来的に市民会館や文化センターをどうしていくかや、確定的な立地まで落とし込むのは難しいため、ある程度想定した中で議論いただきたい。今後、基本計画の策定時に、皆様からいただいた意見を踏まえて、どの機能を駅周辺の施設にもっていくか等を市として決めていくことになると考えているため、この議論が無駄になるわけ

ではない。

【会長】必要な機能として中規模ホールをあげている。基本計画の作成が数年後となれば社会の状況も変わってくると考えており、その中で再整備計画の進捗を待っていてよいのか。本来、基本構想では、今後の文化施策として、活動者にどのようなものを提供していきたいかを示すものと考えている。それが駅前の再整備計画と合致しなければ、別で方向性を達成するための策を練っていくべきである。

【委員】これまではハードについての議論を重ねているが、ハード面は情報を積みあげていけば見えてくるものと考えている。現在の議論では箱ができるという印象しかない。自由に使える場所があるのも大事だが、市民が新しい文化に触れる、キュレーターがいてワークショップしていく、等により長い期間の活動を通して市民がプレイヤーになっていく仕組みがあると良いと考えている。そのためには行政でも新しい部署や人材が必要になってくると考えているため、そのような視野をもって進めていただきたい。立地について、鳥取のひとは自然が豊かだから鳥取にいないのではないかと考えている。鳥取らしさのある海、山、湖、砂丘等のロケーションを活かして、行くだけで気持ちがいいという公共施設があると良いと思う。足を運ばなければいけないものの、ロケーションを活かした施設で感性を育てていくことも大事。以前弘前に滞在した際に、市民の方が誇らしげに施設を紹介してくれた。施設は 50 年以上前に建てられたものだったが、メンテナンスされ市民に愛されていたのが印象的だった。必要だからつくるというよりは、今後みんなの誇りになるものをつくるということもあると思う。

【会長】経費削減ではなく、鳥取をどうしていくかのターニングポイントで、これをきっかけに鳥取を豊かなまちにしていくという提示をする機会だと考えている。

【委員】整備は 15-20 年かかる話だと思っている。その間の活動を維持する場が必要なので、段階的な整備をした方が良く考えおり、その点では駅前の再整備も活用するのがちょうどいい機会となる。新たに作るのであれば中規模、駅前であればそこまでの規模のものはできないという議論になると考えている。

【会長】段階的な整備という時間軸、また市民に使ってもらうためには、今からチャネルをつくっていくということが基本構想に盛り込まれる必要がある。

【委員】鳥取市には小規模で音響の整ったホールがない。多目的ホールであればクリエイティブ

空間で担えると考えており、音楽の目線では、小規模にするのであれば音楽に特化したものになると良い。

【委員】クリエイティブ空間について、練習室や会議室で代用できるという意見があったが、その通りだと考えており、クリエイティブ空間にはものづくりワークショップが行うことができる空間があると良い。鳥取市内の小・中学校では、5月と11月の連休にあわせて「体験的学習活動等休業日」を設けており、家庭や地域との活動を促す期間がある。実際は公民館がものづくり活動をしているが、催しがないために大人の都合で買い物にいくというような過ごし方が多いのではないかと考えている。本校では各学年で親子参観日を設け、親子で伝統芸能を体験する授業をしたが、保護者の参加率が多く、親にとっても子にとっても良い経験になったと考えている。ものづくりワークショップや理科の実験教室などができる空間があると、色々な世代の人が集まる場所になるのではないか。

【委員】文化ホールで年に数回上演活動をしている。現在博物館が休館となっていることもあり、文化ホールは来年度の土日がほとんど予約で埋まっている。活動者の多さに驚いているとともに、10-20年後そのような人たちが困らないように、市民会館・文化ホールと同じ規模のホールがあった方が良く考えている。舞台、講演、上映等、様々な活動で使われているため、様々な機能をもったホールが必要なのではないか。市民会館や文化ホールがどうなるかわからないという状況は不安だが、同規模の施設がなくなってしまうと困るのではないかと考えるため、しっかり議論して考えていきたい。

【事務局】上映会の場合、何名ほど収容する想定か。

【委員】多い時は1回に400名ほど。上映会に限らずピアノの発表会にも使われている。小規模よりも中規模くらいあった方が良く考えている。

【委員】展示スペース兼イベントスペースや見せる収蔵で美術館機能をカバーしようという考えであると思うが、中途半端になる印象がある。見せる収蔵については、作品の劣化もあるため見せられるものは限られてくる。見せる収蔵にも様々なため否定するものではないが、展示施設の指定管理をしている立場で言うと、美術館がほしいという意見になる。毎回ホールの話が出ており展示空間の議題に時間がさけていないが、鳥取県東部には美術館機能がなくなってしまうということが大きな問題としてある。

【会長】美術館、ギャラリーの機能を一定程度持たせる方向性だと思うが、建物ができるからそこに入れたらよいということではなく、それによってどうしていきたいかという市の姿勢を示す必要がある。

【委員】この有識者会議には様々な次元、テーマの話題があり、様々な専門の方が参加している。有識者会議の委員の発言を尊重すべきだと考えているので、中規模のホールは含めるべきではないかと思っている。議論の際には、統合・再編する施設にはそれぞれどのような機能があって、将来的にその各施設がどう代替されるのかが分かるフロー図が示されると良い。基本構想でも書かれているが、離れたページに記載されているため明確に見えるような示し方にしてほしい。また、駅前再整備の検討に振り回されている印象がある。10年後に駅はどうなっているかわからず、また、委員のいうように鳥取らしいロケーションに整備することも考え得る。そのようなことを踏まえて現段階では駅前再整備とは別に考えても良いのではないか。

【会長】駅周辺整備の出方を待っていることが議論しづらい要因でもある。

【委員】箱をつくる議論よりも、ソフトの議論にシフトした方が良いのではないか。ワークショップをやるのであれば、各町内の公民館が活用できるのではないか。地域の子どもが参加していけばそのエリアに元気が出てくる。そのようなマインドをもつことが自己肯定感に必要・重要である。まとまった施設でやった方がわかりやすいということもあるが、分散した施設でやってもいいと思うので、ワークショップのプランニングをやっていくことが重要。おにクルは市民が運営に参加していて良い事例と思ったが、あれは参加したいという市民の思いがあったからできたことで、そのような活動をするためにどうしたら良いのかという議論した方が良いと考えている。

【会長】今まではどういった機能ができており、今後どのように展開したらよいか、それにはどのような施設が必要か、他の施設も踏まえて新たな施設に必要な機能が絞られてくるものと考えている。

【事務局】その点については、次の議題（管理運営）で議論いただきたい。

③ 管理運営について、④整備・運営手法について、⑤基本構想（案）について

※資料 3、4 について、事務局より説明

【事務局】整備の段階から市民を巻き込んだ動きがあると、良い運営になるのではないかと考

えている。

＜質疑応答・意見交換＞

【会長】管理運営は指定管理者等の団体が行うということになるため、管理運営という言葉はそぐわず、市民参加の在り方の議論だと考えている。

【事務局】民間が指定管理者として管理運営を行うことも多くあるが、民間の感覚・ノウハウで色々出来るという利点がある一方、利用者がお客さんになってしまうため、市民が主体的に関わる仕組みもあると良いと考えている。

【委員】おにクルの事例については聞いたことがあるが、このような取り組みは自然発生させるのは難しく、まずは火種をどうつくるかを考えていくことが必要。

【委員】設計や運営に市民が関与するというのは理想的だが難しい側面もあるため、どのように関わるかは慎重に検討した方が良い。

【委員】市民といってもプレイヤー、鑑賞者の立場がある。どのように火をたきつけていくかが重要で、施設の箱だけをつくっても魂を入れないと意味がない。プレイヤーの中にも音楽、美術、それ以外にも様々な人がおり、どのように市民に関わってもらうのかは重要となる。

【会長】どの事例も最初から組織体が整っていた訳ではなく、過去の施設を使っている人を集めることから始めており、その地域での市民活動を市がどう育てるかが反映された文化施設づくりだと考えられる。財政面を考えても市民が積極的に関わるのが大切で、来年度からでも文化コーディネーターの人材育成を始められるのではないかな。基本構想にも、施設整備の前から市民を募って取り組んでいくということを記載してほしい。

【委員】資料の事前配布が直前のため読み込めていない。本日の議論を踏まえて考えた部分もあると思うので、別途委員に意見を聞く場を設けて頂くのが良いのではないかな。

【会長】改めて委員の意見を集約いただきたい。第 5 回有識者会議の資料は早く委員に共有いただきたい。基本構想のパブリックコメントはいつ募集となるかな。

【事務局】次回の有識者会議をもって基本構想を（案）確定し、その後パブリックコメントを行う予定。

（2）今後の予定

【事務局】第 5 回有識者会議は 5 月を予定しており、日程調整は別途依頼させていただいているのでメールで返信をお願いしたい。

3. 閉会

以上